



# 社会貢献の森「あきぎんの森」で 森林再生

～クロマツ林の下刈などに70名が汗～

—— 由利森林管理署

7月30日(土)、水林国有林に設定された「あきぎんの森」において、秋田銀行役員及び家族70名が、過去2年間に植樹したクロマツ林の下刈作業などに汗を流しました。

「あきぎんの森」は、本年5月31日に株式会社秋田銀行と由利森林管理署の間で締結された「社会貢献の森における森林づくり活動に関する協定書」(名称「あきぎんの森」)に基づくもので、秋田銀行創業130周年記念事業の一環として、松くい虫被害を受けた水林国有林の再生を目的に設定され、活動は平成26年3月末まで行われることになっています。

開会式では、秋田銀行の佐々木専務から「クロマツの生育を助けるために手入れも大事。数十年後に立派な海岸林が再生することを祈りたい」と挨拶があり、当署須藤署長からは「この度の大地震においても海岸林が津波の威力を弱めると実証されており、皆様の力を借りて、水林の海岸林を再生させたい」と挨拶しました。

開会式の後、当署職員から作業指導を受け、参加者はクロマツ林の下



下刈の様子

刈と天然生クロマツ林の除伐作業(本数調整伐)の2班に分かれて作業を行いました。各々、下刈鎌や草刈鋏、ノコギリを持って、曇り空とはいえ真夏の日の中、汗だくになりながら約1時間で作業を終えました。

銀行職員のお母さんと一緒に参加した子供さんは「太い雑草がなかなか切れなくて難しかったけど、小さいマツにお日様が当たるようにしたい」と、懸命に草刈鋏を動かしていました。



参加された皆さんの笑顔

本協定は平成21年7月13日に協定された「森林再生ボランティアの森づくり活動に関する協定書」の継続となるもので、過去2年間の活動として、0.58haにクロマツ2600本の植栽(うち、抵抗性マツ250本)と、区域内にある0.19haの天然生クロマツの除伐作業を実施し、秋田銀行役員及びその家族延べ390名が参加しています。